

◎ 美術館情報

最新の情報は、各施設の公式ホームページなどでご確認ください

1. 岐阜県現代陶芸美術館【岐阜・多治見】

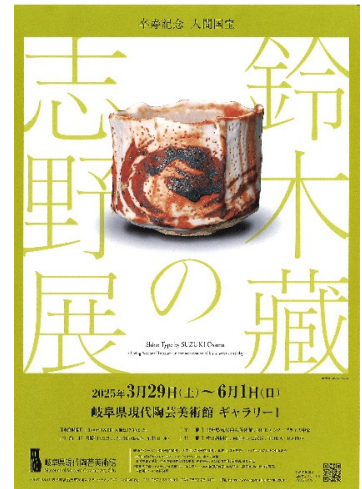
(https://www.cpmgifu.jp/museum/exhibition?exh=exhs_next&room=Gallery-1)

3月29日(土)～6月1日(日)

特別展：卒寿記念 人間国宝 鈴木藏の志野展

日本の、そして美濃陶芸の現在を代表する陶芸家、鈴木藏(1934年生まれ)は、荒川豊蔵(1894～1985)に続き、二人目の「志野」における重要無形文化財保持者(人間国宝)です。令和6年度、文化功労者に顕彰されました。鈴木藏は岐阜県土岐市生まれ、多治見市市之倉の丸幸陶苑に勤務する父の助手として働く中で、本格的にもものづくりの道へと進むこととなります。1966年に31歳で独立。薪窯でしか焼けないとされていた「志野」にガス窯で挑戦し、自然への畏敬の念を重んじ、伝統を大切にしながら独自の作陶スタイルを確立していきます。「志野には日本人の美意識の独特さと素晴らしさがある」と語る鈴木藏。作品を作るなら「新しく、力強いもの」という姿勢を崩さず今日まで取り組んできました。本展では2024年12月に卒寿を迎えた鈴木藏の初期から最新作までを一堂に展示します。古典を大切に

しつつ自らの美意識を映し出した、独自性に富んだ作品を展示し、鈴木藏の軌跡と“今”を紹介します。



2. 愛知県陶磁美術館【愛知・瀬戸】 (<https://www.pref.aichi.jp/touji/exhibition/index.html>)

4月1日(火)～5月6日(火・振休)

テーマ展：リニューアルオープン記念

新シュウ蔵品展－美術館シュウシュウのあれこれ

「蒐集」は趣味や研究のために集めることを指し、美術館の活動に深く関わっています。集める「集(シュウ)・蒐(シュウ)・聚(シュウ)」のほか、探し求める「捜(シュウ)」、受け取る「受(シュウ)」、ひろい集める「拾(シュウ)」など、様々な経緯で集められた作品を紹介します。



灰釉蔵手唐草文手付水注
鎌倉時代(14世紀前葉)

3. 大阪市立美術館【大阪・天王寺】

(https://www.osaka-art-museum.jp/sp_evt/kokuhou2025)

4月26日(土)～6月15日(日)

特別展：大阪・関西万博開催記念

大阪市立美術館リニューアル記念特別展 日本国宝展

本展はおよそ130件の国宝が一堂に集まります。(参考出品を除く)生み出された時代を表す鏡でもある美術工芸品、そしてその頂点とも言うべき国宝を通じて日本の美の歴史を辿る、稀有にして贅沢な機会となることでしょう。また、リニューアルオープンと万博の開催が重なるまたとない機会に、初めて大阪で開かれる国宝展であることから、大阪ゆかりの国宝もまとめてご紹介します。すべて最初から国宝だったのではなく、何百年あるいは何千年もの時を越えて奇跡的に今に伝わり、国の至宝となったものばかりです。この奇跡を可能にした、守り伝えていこうとする人々の熱い思いとたゆまぬ努力を継ぐべく、文化財を未来へ伝えていくことの意義についてもご紹介します。

